

春分儀式

I O S 儀式魔術文書 VE05A



THE OFFICIAL ORGAN
OF
I O S

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I O S

THE SPRING EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING
I O S ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。

《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に春分点の前後48時間以内に実施すること。2005年の春分点は3月20日(日)21時36分に通過する。

儀式内容は、春分の祝祭を実施する。

1 物見の天使

アザエルの伝承は『第3エノク書』にある。

「かれらは太陽と月と惑星と星座を引き下ろし、偶像の左右に置いた。
・・・かれらはウzza、アザ、アジエルの教えなくしてこれをなし得なかった。」⁽¹⁾

一種の占星魔術儀式が古代ユダヤにおいて実践されていたことは『カイロ・ゲニザ』などにも記録がある。⁽²⁾その方法論はきわめて単純であり、シャフターらが解析したヘハロース文書の召喚呪の定式を踏んでいる。⁽³⁾

しかし、マクロフォルムにしばしば顕れるアザエル、アシエル、アザゼルとは何者であろうか。『第1エノク書』においては、ネフリムの長のひとりとして、人間の女と交わり、霊的に墮落した天使である。

しかし、カナダのアネット・ヨシコ・リード助教授⁽⁴⁾は別の視点を提供する。

アザゼルは救いの天使(Ministering Angel)でもあるというものだ。⁽⁵⁾

かれら物見の天使(見張り)は魔術界においては特別な意味を有している。

見張りを意味するイリムと呼ばれた天使たちのギリシャ語名がエグレゴロスだからである。魔術団体の集合精神を意味するエグレゴレの原型は、この見張りの天使たちなのだ。

今回の儀式では、ヘハロース文書の伝承によるウzza、アzza、アザエルという三人のイリムを召喚する。かれらは常に一つの文脈のなかで語られ、個々の神格を有した天使存在であるが、伝承のなかではアザゼルに統合される。

かれらの低次アストラル成分は人間との異種混交により霊的な純粋性を喪失している。しかし、それ故に人間の悲しみ苦しみを最も理解している。

従って、かれらの高次アストラル成分は救いの天使として、人間の苦難を放置し得ない。

イルとして最も不可思議で矛盾した性質をもつ天使アシュエル、アサエル、アザゼル(これらはすべてアザゼルの異名である。)はクリボトの領域からブリアーの領域までを横断できる唯一の天使である。その行動の幅は、他の天使の追隨を許さない。

かれは男性形の天使であり、少年の面影を残した若者の姿で顕れる。

その哀愁を帯びた表情は、主の命令に反して多くの天使たちを墮落させた行為に対する自責の念によるものか、未だ物質から自由になり得ない人間への同情の念によるものか、誰も確かめてはいない。

(1) Hugo Odeberg, *3 Enoch or The Hebrew Book of Enoch*, New York: Cambridge University Press, 1928, p.16.

(2) いわゆる文書番号「T.-S. K 21.95. L 」2b 13-15行における記述による。
Peter Schafter, *Geniza-Fragmente zur Hekhalot-Literatur*, Tübingen: J.C.B.Mohr, 1984, p.137.

(3) Peter Schafter, *Hekhalot-Studien*, Tübingen: J.C.B.Mohr, 1988, pp.258-259.

(4) <http://www.annettereed.com/annette.html>

(5) Annette Yoshiko Reed, " From Asael and Semihazah to Uzzah, Azzah, and Azael: 3 Enoch 5 (§§ 7-8) and Jewish Reception-History of 1 Enoch ", in *Jewish Studies Quarterly*, Vol.8 (2001), Tübingen: J.C.B.Mohr, 2001, pp.105-136.

2 司官の配置

(1) 司官の指定

本儀式に必要な司官は、PRAECEPTOR (P C)、すなわち「先導者」の1名である。

P C は、黄金の夜明け団の伝統的な白の法衣を纏い。白のネミスをかぶり、マントやその他の役職記章はつけていない。右手に「ハイエロファントの棒」をもつ。それは神殿を開き、つなげる権威の象徴である。

他の参列者は、内陣団員は白の法衣と白のネミスを、外陣団員及びプロベিশヨナーは、黒の法衣と白黒縞のネミスをかぶり、手には何も待たず参集する。

ディオン・フォーチュンの内光協会のアストラル神殿儀式では、参集者は儀式場に座ったまま、光体（かれらはアストラル体と呼称）を下位アストラル神殿に投射する。そのとき光体は全裸であり、神殿の着衣の間（Robing Room）において、光の法衣を纏う。



(2) 天使召喚

司官は、マルクト神殿において物見の塔の天使を召喚するが、魔術師の「光体」との融合は実施しない。

3 アストラル神殿の構造

マルクト神殿を使用する。

4 魔術の技法的側面

(1) 四大の呼吸

この技法の原型は、エリファス・レヴィの「四の喚起」及びフランツ・バードンの「元素呼吸法」である。フランツ・バードンは、7回等の回数を定めて呼気と吸気を均衡させ、練習後に内部に元素を残さないことを注意しているが、本儀式では霊灯として外部に焦点を結ばせるため、均衡を特に重視していない。儀式終了後に体内に擾乱、不快感を感じる場合は、五芒星儀式等で排出すること。

(2) 神聖名

本文の神聖名は『第3エノク書』及び『カイロ・ゲニザ』から引用している。

5 身辺の準備

(1) 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。（家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等）、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に快適な椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

今回の仕様では回転椅子が望ましいが無理ならどのような椅子でも良い。

何度も反復して練習し、象徴や、儀式の細部まで呑み込んでいても、外部の妨害ですべてが台無しになることもあり得る。準備は、怠りなく。

(2) シナリオ

シナリオ文書を一部、手軽に確認できる場所に置く。

自分以外のパートの台詞とト書をテーブルに吹き込んでおく。

あなたの行動する部分は緑の文字で記してある。

神聖名を発音するときは、注意深く行うこと。

事前のリハーサルは勿論、必須とも言える。

(3) 直前の手順

開始する前に手を洗い（儀式的沐浴）、法衣（または身体を締め付けない服装）に着替え、L B R Pを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

第2章 儀式

1 神殿への入場

この準備的作業は、光体のレベルではなく、生身の肉体で行う。

参加者は、東に面して座り、目を閉じ、深く呼吸をする。呼吸は肺だけではなく、全身の皮膚を通して行う。一息ごとに、喉や鼻孔のみならず、全身の皮膚から、周囲に満ちている生気が肉体に吸い込まれ、全身の細胞を活性化する。

一息吸い込む都度、この地上世界の清浄なもの、力に満ち溢れたものが入り込み、肉体の隅々まで駆けめぐったあと、あなたの内部から不純なもの、不浄なものが吐く息とともに放出されると強くイメージする。この呼吸を数回、または納得のいくまで続ける。

次に「地の呼吸」を行う。目を閉じたまま、重く堅固な岩や土に覆われた大地の中心に自分が座っている様子をイメージする。その大地は柔らかな草葉の緑に覆われ、静かで、あなたのほかには誰も存在しない。しかし、心の目で見ると地の元素が休み無く動いているのがわかる。

あなたは、地の元素を全身を用いた呼吸で吸い込む。喉を通して肺を、皮膚を通して肉体の隅々まで、冷たく乾いた地の元素が緑の微粒子の渦として流れ込み、あなたの肉体と靈魂の容器を地で満たす。一呼吸ごとに、あなたの身体が重くなり、強固になり、地が充満していく。緑の大地のただなかに座りながら、あなたの身体が緩やかに大地と溶け込み、地そのものとなる。十分に納得できるまで、地と同化できたら、体内に溜め込まれた地の元素を呼気とともに吐き出す。

濃密な緑の息吹が、すばめたあなたの唇から噴出し、2メートルほど離れたところに、未成熟の麦穂のような、上向きに数百の緑の糸が絡み合うような渦を巻く。その緑の麦穂は、地の元素の結晶体であり、あなたの旅路を照らす地の霊灯である。

次に「水の呼吸」を行う。目を閉じたまま、大海原の中心に自分が浮遊している様子をイメージする。群青からエメラルド色まで、さまざまな青系の光に満ちあふれた水があなたの周囲を満たしている。そこには、あなたのほかには誰も存在しない。しかし、心の目で見ると水の元素が尽きることのない満ち引きの運動を繰り返しているのがわかる。それは現実の水ではなく、純化した水の観念なので、呼吸を阻害したり、溺れることはない。

あなたは、水の元素を全身を用いた呼吸で吸い込む。喉を通して肺を、皮膚を通して肉体の隅々まで、冷たく湿った水の元素が青い微粒子の渦として流れ込み、あなたの肉体と靈魂の容器を水で満たす。一呼吸ごとに、あなたの身体に清浄な水の霊気が充満していく。あなたの肉体のすべての細胞内に存在する内部の水と、この外部の水の霊気が精妙に溶け合い融和していく様子を感じなさい。十分に納得できるまで、水と同化できたら、体内に溜め込まれた水の元素を呼気とともに吐き出す。

濃密な青い息吹が、すばめたあなたの唇から噴出し、2メートルほど離れたところに、睡蓮の厚い花弁に見える渦を巻く。その青い睡蓮は、水の元素の結晶体であり、あなたの旅路を照らす水の霊灯である。

次に「風の呼吸」を行う。目を閉じたまま、広大無辺の空間に自分が浮遊している様子をイメージする。その空間はほのかに黄色く、あなたのほかには誰も存在しない。しかし、心の目で見ると風の元素が静かに流れているのがわかる。

あなたは、風の元素を全身を用いた呼吸で吸い込む。喉を通して肺を、皮膚を通して肉体の隅々まで、熱く湿った風の元素が黄色い微粒子の渦として流れ込み、あなたの肉体と靈魂の容器を風で満たす。一呼吸ごとに、あなたの身体が風船を膨らますように、風が充満していく。黄色い空間を浮遊しながら、あなたの身体が益々軽くなり、風そのものとなる。十分に納得できるまで、風と同化できたら、体内に溜め込まれた風の元素を呼気とともに吐き出す。

濃密な黄色い息吹が、すばめたあなたの唇から噴出し、2メートルほど離れたところに、タンポポのような幾千の花弁に見える渦を巻く。その黄色いタンポポは、風の元素の結晶体であり、あなたの旅路を照らす風の霊灯である。

次に「火の呼吸」を行う。目を閉じたまま、周囲の空間に熱と躍動する炎の柱が幾本もたつ様子をイメージする。その空間は、明滅する赤色の層に覆われ、あなたのほかには誰も存在しない。しかし、心の目で見ると火の元素が活発に運動しているのがわかる。

あなたは、火の元素を全身を用いた呼吸で吸い込む。喉を通して肺を、皮膚を通して肉体の隅々まで、熱く乾いた火の元素が赤い微粒子の渦として流れ込み、あなたの肉体と靈魂の容器を火で満たす。一呼吸ごとに、あなたの身体は、熱で満たされる。赤い空間を浮遊しながら、あなたの身体は、希薄に透明になり、挑戦的で、燃え上がる火そのものとなる。十分に納得できるまで、火と同化できたら、体内に溜め込まれた火の元素を呼気とともに吐き出す。

濃密な赤い息吹が、すばめたあなたの唇から噴出し、2メートルほど離れたところに、薔薇の

花のような渦を巻く。その深紅の薔薇は、火の元素の結晶体であり、あなたの旅路を照らす火の霊灯である。

四大の呼吸を終了した時点で、あなたの周囲には四つの霊灯がある。前方、東にタンポポのように浮遊する黄色い風の霊灯が、あなたの右手、南には深紅の薔薇に見紛う活発な火の霊灯が、あなたの背後には青い睡蓮の花に見える水の霊灯が、そして、あなたの左手、北の方角にはまだ青く強い生命力を模した麦穂に見える地の霊灯がある。

あなたは再び肉体と心の弛緩を確認し、自分のアストラル的姿形を形成する。まず、前方に光体を形成する。自らが輝く光の法衣を纏う様子を強く視覚化する。この光の法衣は、四方にある四大の霊灯と結びついている。

光の法衣の着用が終了したら、沈黙し儀式の背後にある意味を黙想しつつ待つ。

あなたは、自分の光体の身体を立ち上がらせ、肉体を脱ぎ捨てたまま、前に進む。そのとき、四大の霊灯は吸い寄せられたように、光体の間近に寄り。ちょうど肩の高さで前後左右を照らす。

あなたは光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地する。



右前方には香祭壇が犠牲を灼く煙を発生し、左前方には青銅の海が12頭の青銅の牡牛に支えられている。あなたはマルクト神殿の石段を登ると、左右にヤキンとボアズの柱、正面に重々しい扉がある。扉の表面に刻まれたI O Sの三文字が内側から光を発生し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、兄弟姉妹たちが集っている。

2 ウシャブティ

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るPCが静かに命じる。「ウシャブティを纏うべし。」PCは、率先して「小神像（ウシャブティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話的形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。アケファロスの姿形をもつ参加者のひとりひとりには、自ら形成した四大の霊灯が寄り添い四色の光を放っている。

PCは、廊室の中央の扉をくぐり、本殿に入る。

兄弟たちは、廊室でしばし準備のできるのを待つことになる。

3 準備儀式、入場及び宣言

PCは、祭壇の西側に回り込む。自らのオーラを広間全体に広げる。そして、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。引き続き、小六芒星の追儼儀式を行う。

東に面し、開門の宣言を行う。

「ヘカス ヘカス エステ ベペロイ」

さらに、物見の塔の儀式を応用し、霊気を安定させる。

これらが完全に成し遂げられたら、神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

P C の霊的な鈴の合図で、参加者の入場が始まる。
兄弟たちは右側、すなわち南の壁際に立ち。姉妹は左側、北の壁際に立つ。

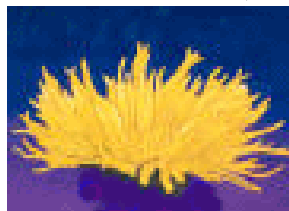
P C は、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。
P C : 「 I O S の兄弟姉妹たちよ。春分の儀式を開始せん。 」

4 四大の献灯

P C は、参列者を見渡し、それぞれの霊灯を確認する。
P C は、神殿広間の東壁に立ち、西を向いて言う。
「 I O S の兄弟姉妹たちよ。もちきたる元素の炎を神殿に献灯すべし。

「まずは、風の灯火を捧げん。」
P C は反転し、自らの風の霊灯を下側から両手できくみ込むように持ち上げ、言う。

「Fiat verbum halitus meus.
Devoveo tibi, Conventus Sylvorum.
風の光を東に。」



参列者は、同じく風の霊灯をすくい上げ、言う。

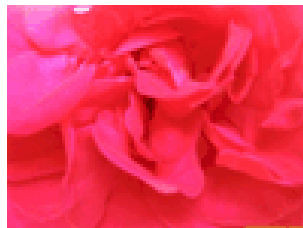
「Fiat verbum halitus meus.
Devoveo tibi, Conventus Sylvorum.
風の光を東に。」

参列者全員の手の中から黄色いタンポポに似た風の炎が浮遊し、東壁の天使像のスタンドグラスの前において相互に融合し、ひとつの巨大な黄色い光を放つ花のような集合体となる。

「次に、火の灯火を捧げん。」

P C は右廻りに 90 度回転し、南面し、自らの火の霊灯を下側から両手できくみ込むように持ち上げ、言う。

「Fiat verbum halitus meus.
Devoveo tibi, Mysterium Salamandrae.
火の光を南に。」



参列者は、同じく火の霊灯をすくい上げ、言う。

「Fiat verbum halitus meus.
Devoveo tibi, Mysterium Salamandrae.
火の光を南に。」

参列者全員の手の中から深紅の薔薇に似た火の炎が浮遊し、南壁の有翼の獅子のスタンドグラスの前において相互に融合し、ひとつの巨大な深紅色の光を放つ花のような集合体となる。

「次に、水の灯火を捧げん。」

P C は右廻りに 90 度回転し、西面し、自らの水の霊灯を下側から両手できくみ込むように持ち上げ、言う。

「Fiat verbum halitus meus.
Devoveo tibi, Verbum Pythonicum.
水の光を西に。」



参列者は、同じく水の霊灯をすくい上げ、言う。

「Fiat verbum halitus meus.
Devoveo tibi, Verbum Pythonicum.
水の光を西に。」

参列者全員の手の中から睡蓮に似た青い炎が浮遊し、西壁の鷲のスタンドグラスの前において相互に融合し、ひとつの巨大な青い光を放つ花のような集合体となる。

「最後に、地の灯火を捧げん。」

P C は右廻りに 90 度回転し、北面し、自らの地の霊灯を下側から両手できくみ込むように持ち上げ、言う。

「Fiat verbum halitus meus.
Devoveo tibi, Antra Gnomorum.
地の光を北に。」

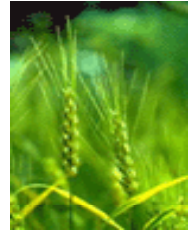
参列者は、同じく地の霊灯をすくい上げ、言う。

「Fiat verbum halitus meus.

Devoveo tibi, Antra Gnomorum.

地の光を北に。」

参列者全員の手の中から緑の麦穂に似た緑の炎が浮遊し、北壁の有翼の牡牛のステンドグラスの前において相互に融合し、ひとつの巨大な緑の光を放つ麦穂のような集合体となる。



P C は、さらに 90 度右回転し、東に面する。

「O Caput Mortuum. Sanctus Sanctus Sanctus ! Crux Elemental, Stella in Quater!

正しく四方の霊灯は献灯されしなり。」

参列者は P C に倣い、さらに 90 度回転し、東に面する。

「O Caput Mortuum. Sanctus Sanctus Sanctus ! Crux Elemental, Stella in Quater!

正しく四方の霊灯は献灯されしなり。」

5 天使召喚と天使による星辰の喚起

P C は祭壇の西に東面して立ち、召喚の呪を唱える。

P C : 「われここに救いの天使を召喚する。」

P C は祭壇の北に廻り、南面する。

参列者は同じく南面する。

P C は祭壇の上に置かれたトランペットを取り上げ、長く吹き鳴らす。

金属質の大音響が、参列者の魂を吹き飛ばさんばかりに神殿の広間を揺らす。

トランペットの残響が消え去るとき、P C は楽器を祭壇に戻し、天使を召喚する。

P C : 「בְּקוֹל חֲצוֹצֶרֶת קָרָא מַלְאכֵי הַשָּׁרֵת עֲזֹאֵא」

(トランペットの響きにより救いの天使ウツザを召喚する。)

(ベコール カツォツェラー カーラー マラキ ハシャーレート ウツザ)

参列者：「בְּקָרָא עֲזֹאֵא」(カーラー ウツザ)

その呪とともに、火の霊灯が明滅し、救いの天使ウツザの姿に転換する。天使ウツザは、六枚の深紅の翼を広げている。

二枚は上方へ、二枚は左右に、そして、二枚は下方に展開し、その胴体は翼に隠れて見えない。

赤毛は翼の肩口に溶け込み、白面は硬く無表情であるが、どこか寂しげである。六枚の翼の中心に緑の火文字アインが明滅している。



ウツザは宣言する。

MO : 「わが名はウツザ。汝らの行手に立ちたり。

六つの声に先立ち、広間の門を照らすものなり。」

P C は祭壇の南に廻り、北面する。

参列者は同じく北面する。

P C は祭壇の上に置かれた角笛を取り上げ、長く吹き鳴らす。

山羊の角を削り抜いた角笛の大音響が、参列者を北の大地に吹き飛ばさんばかりに神殿の広間を揺らす。

角笛の残響が消え去るとき、P C は楽器を祭壇に戻し、天使を召喚する。

P C : 「בְּקוֹל שׁוֹפָר קָרָא מַלְאכֵי הַשָּׁרֵת עֲזֹאֵא」

(角笛の響きにより救いの天使アツザを召喚する。)

(ベコール ショーフアー カーラー マラキ ハシャーレート アツザ)

参列者：「בְּקָרָא עֲזֹאֵא」(カーラー アツザ)

その呪とともに、地の霊灯が明滅し、救いの天使アツザの姿に転換する。天使アツザは、六枚

の深緑の翼を広げている。

二枚は上方へ、二枚は左右に、そして、二枚は下方に展開し、その胴体は翼に隠れて見えない。

緑の長髪は翼の肩口に溶け込み、白面は硬く無表情であるが、どこか寂しげである。六枚の翼の中心に赤の火文字ヨドが明滅している。



アッザは宣言する。

MI：「わが名はアッザ。汝らの行手に立ちたり。

六つの声に先立ち、七天の広間を照らすものなり。」

PCは祭壇の西に戻り、東面する。

参列者は同じく東面する。

PCは頬の左右に喇叭のように手指を広げ、長い叫び声をあげる。

PC：「a a a a a a a a . . .」

PCの全身を楽器としたかのような大音声が、参列者の光体を振動させつつ、神殿の広間を揺らす。

叫び声の残響が消え去るとき、PCは両手を戻し、天使を召喚する。

PC：「בְּתִרְעָה קָרָא מְלָאכִי הַשְּׂרֵת עֲזָאֵל」

(叫び声により救いの天使アザエルを召喚する。)

(ペテルラー カーラー マラキ ハシャーレート アザエル)

参列者：「עֲזָאֵל קָרָא」(カーラー アザエル)

その呪とともに、風の霊灯が明滅し、救いの天使アザエルの姿に転換する。天使アザエルは、六枚の黄金の翼を広げている。

二枚は上方へ、二枚は左右に、そして、二枚は下方に展開し、その胴体は翼に隠れて見えない。

豊かな金髪は翼の肩口に溶け込み、白面は硬く無表情であるが、どこか寂しげである。六枚の翼の中心に青の火文字レシュが明滅している。



アザエルは宣言する。

MR：「わが名はアザエル。汝らの行手に立ちたり。

六つの声に先立ち、栄光の玉座を照らすものなり。」

PCは祭壇の西側から東に宣言する。

PC：「汝ら救いの天使ウッザ、アッザ、アザエルよ。

汝らは物見の天使として知られたり。

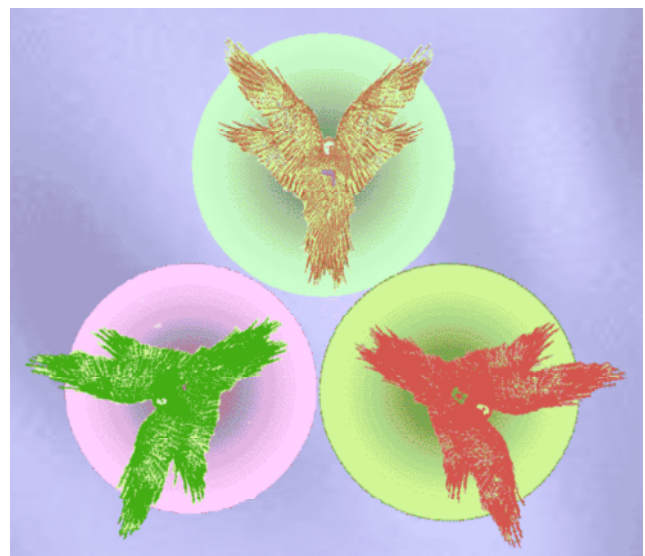
それ故に『見張りと聖なるものが天から降り来たり』と語られたり。

汝らの胸に刻まれし、火文字アイン、ヨド、レシュは単語イルを形作る。されば、すべての都市に物見の塔をたて、万軍の主の降臨を待ち望まん。」

右手の天使ウッザと左手の天使アッザは、正面の天使アザエルの左右に移動し、神殿の至聖所の前に並んだ。

そして、巨大な東の壁の前で翼あるものたちは、天使の三角形を形作る。

天使たちの翼の間から不可思議な音楽が聞こえる。三人の天使は、声を合わせて星辰の喚起の呪を唱える。



MOIR:「מורידין חמה ולבנה כוכבים ומזלות」
(太陽と月よ、四方の星座よ。降り来たれ。)
(ムラディン カマー ヴェ・レバナー コカビム ヴェ・マツロース)

MOIR:「ומעמדין לפנייהם מימינם ומשמאלם」
(しかして、右と左の御前に立ちたり。)
(ヴェ・モムディン ラブニハム ミミナム ヴェ・マシュマラム)

南北の壁に星空が広がり、南の空には太陽が、東の空には月が出現した。

PC:「天の万軍が傍らに侍り、右と左に居並ぶのを見たり。」

東の壁面に歌う三人の天使がひとつの姿に融合していく。
それは無数の羽を絡ませた集合体である。矢羽がぐるぐると回り初め、銀色の羽の渦と、黄金の羽の渦が交差しつつ激しく回転していく。中心に位置する白い顔だけが静止しているが、やがて翼の巻き起こす風のなかに、哀惜を含んだ物見の塔の天使の表情も隠れていく。

翼の色は夜明けの薄明のうす明るい白と、宵闇の黒の二層に分かれていく、融合した天使の姿は東の壁に投影された星空のなかに溶け込んでいった。

天使と太陽と月と星座の臨在のみが感じられ、神殿の広間は霊的存在に満たされた聖別された儀式空間となった。



人間が儀式を行う順番がきた。

6 春分の主祭

PCは、神殿の東側から中央を向いて言う。

PC:「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。
I a H a V a H a (ヤアー・ハアー・ヴァー・ハアー)
H e V e H e I e (ヘイ・ヴェイ・ヘイ・イエイ)
V o H o I o H o (ヴォー・ホー・イヨー・ホー)
H I H V (ヘー・ヨド・ヘー・ヴァウ)」

PCが宣言する。

PC:「大いなる周行をもって、祭壇に集中せん。」

祭壇を軸として、3度周行する。

PC:「神秘なる周行は完成し、昼と夜は均衡した。春分は到来せり。」

PCは、祭壇の東に廻り、西に向かってホルスのサインを行う。

PC:「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」

PCは、祭壇の西に廻り、東に向かってハーポクラテスのサインを行う。

PC:「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の新しきパスワードは・・・なり。」

PC:「パスワードは交換された。」

全員が祭壇を取り囲む。

PC:「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。
無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、
そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み輪のなかに祭壇を包み込む。

手を放すことなく次を唱える。
全員：「主よ。われらは自らを捧げん。
わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。
汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

全員、東を向く。
全員：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！
聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！
聖なるかな、汝、廣大にして強大なる者よ！
光と闇の主よ。」

P C：「聖なる場に神秘なる逆周行を起こさん。」
全員がP Cに続き三度周行し、左回りの渦が形成された。

P Cが発言する。
P C：「神秘なる逆周行は完成した。」

7 諸天使の出立

P Cは祭壇の西に行き、東を向く。
P C：「物見の塔の天使アザゼルよ。太陽と月と星座を戻し、静謐なる姿で顕れたまえ。」

星空が融け消え、東の壁の前に小振りな岩の上に座った憂い顔の天使が顕れる。
その片方の翼は闇より暗く、他方の翼は夜明けの薄明時のように臙に白い。

P C：「汝の名は冥界においては、
𐤀𐤍𐤕𐤔 (アシュエル)、
反乱せる天使の長のひとりにて、
封印されし者なり。」

汝の名は地上においては、
𐤀𐤍𐤕𐤔 (アサエル)、
救いの天使の長のひとりにて、
絶望の淵にある靈魂の救護者なり。

汝の名は天界においては、
𐤀𐤍𐤕𐤔𐤕 (アザゼル)、
物見の天使の長のひとりにて、
七宮殿への不法なる侵犯を遮る者なり。」



P Cは天使アザゼルに立礼する。
P C：「物見の天使長よ、われらの敬意を嘉納し、靈の虚の場所に戻りたまえ。」
𐤀𐤍𐤕𐤔𐤕 𐤇𐤕𐤕 (アリヤー アザゼル)」

参列者：「𐤀𐤍𐤕𐤔𐤕 𐤇𐤕𐤕 (アリヤー アザゼル)」

この唱和とともに天使長アザゼルは、寂寥感を宿した微笑みを残して消え去る。
それと同時に神殿に四大の靈灯が復活した。

P C：「聖なる五つの文字に表象される長老たちよ。
I H S h V H (ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー)
万軍の将、靈の虚の場所に住まわん。
I H V S h H (ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー)
戴冠せる王、靈の虚の場所に住まわん。
光と闇の轆轤を逆転し、魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

PC：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。
主の聖霊は、森羅万象の上にあり、下にあり、内にあり、外にもある。
主よ、生ける霊と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。
律法の宰相は、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

8 献灯の消灯及び地上への帰還

PC：「人の子らよ。律法の宰相は、去れり。
大いなる感謝の念を抱きつつ、四大の献灯を消灯せん。」

PC：「四大の元素の炎よ。汝らの領域に、人の交わらぬ場所に還元せん。」
この言葉とともに、参列者の頭上高く四方向で燃えていた元素の炎は、徐々に希薄化、分散しながら高度を落とし始めた。全員の視線を越えるときは、明瞭な姿かたちを喪い。さらに降下していき、朧気な雲か、蒸気のような塊になり床に呑み込まれていく。
そのとき、すべての参列者は、霊灯と自分の間にあったリンクが切れ、元素の光が四大の別院のなかで、もとの元素界に再度吸収されたことを感じとった。

PC：「献灯は消灯せり。されば、地上に帰還せん。」

PCは《ヴェールを閉じる》サインを行う。
PC：「IHShVHとIHVShHの御名において、
この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

PC：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外へ出る。神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。（特別な手順は必要ない。）静かに目を開き、立ち上がる。
法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。
普段着に戻り、儀式についての個人的メモ（『魔法日記』用）を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を探り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

VERBORUM PUBLICA
I O S
RITUALE DE
AEQUINOCTIO VERO A

IMPRIMI POTEST: I O S
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6
MARTIUS MCMXCXV

春分儀式 V E O 5 A

Copyrights © All rights reserved I O S 2005

2005年3月13日 I O S 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I O S の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I O S の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。